

眩しいまでに輝く北海道の初夏を舞台に行われたオリエンテリングツアー「Do-Ringen」。梅雨知らずの北海道を楽しむ企画は、北の大地に住むオリエンテリング愛好家からのプレゼント。

オーラの集団!

5月中旬頃、Orienteer-MLに流れた「Do-Ringen」の文字。「ま～た、北海道協会が何かわけわからんこと始めましたな?」と思われた向きも多いだろう。大会の様相と開催までの経緯を報告します。

7月12日(土)・13日(日)の2日間、道南に位置する函館・大沼で開催されたDo-Ringenは言うまでもなく、誰もが知っているSwedish 5days 0-Ringenをパクった北海道版複数日大会の名称。名付け親はこの企画を持ってきた信原事務局長である。

ややこしいのだが、この大会は1日目(7月12日)に函館市五稜郭公園にて開催された「Park-0 Tour Hokkaido 2003 第2戦」と2日目(7月13日)に亀田郡七飯町東大沼で開催された「第26回北大大会 兼 第1回流山温泉OL大会」の成績と伝説の大沼ポートオリエンテリング大会の3レース総合ポイントで成績をつける大会である。

ポート0を除いては各独立した大会なのだが、ここではDo-Ringenとしてツアー企画に参加して頂いた11人の姿を追いながら大会を記したい。

7月12日(土)朝 函館駅集合

今回Do-Ringenとしての企画はインカレのようにツアー形式となり、輸送・宿泊ともに運営者の管理下に置かれることになった。まだオープンして2週間ほどの函館駅新駅舎函館朝市側出口に参加者が集合した。観光客で混み合う駅出入口だが何故かオリエンティアは独特のオーラがあって、初対面の方でもすぐ参加者だとわかるのが面白い。かくして、2日間の北海道オリエンテリング三昧のツアーが開始された。

五角形の迷宮

第1ステージ

「Park-0 Tour Hokkaido 2003 第2戦」
函館市五稜郭公園

函館駅から車で10分程の五稜郭公園。函館の経済の中心地は駅周辺でなく五稜郭なのでデパートや飲食街が建ち並び片隅に桜の花弁のように五角形をした歴史公園が存在する。過去にも1度パーク0を開催したことがある公園だが、五角形で似たような風景が広がりコンパス必須かつお堀に架かる橋情報や城趾の高低差情報を上手くつかまないとタイムロスにつながる公園である。

数日前までは雨天で寒さに震えていたが、当日は天候に恵まれ北海道らしいさわやかな気候の中、足慣らしをしていただけたものと思う。

レース結果はM21Aが富田吉郎氏(館林OLC)が奥村理也氏(ウルトラクラブ)を押さえてトップ。女子も夫人である三好暢子氏(上尾OLC)がトップとなり夫婦で表彰となった。M35Aではニュージーランドの著名なマッパー(らしい)Darren Scott氏が城森博幸氏(OLP兵庫)を1秒差で抑えてトップとなっている。パーク0ということでスピード重視のあまり隣接コントロールに引っかけたペナった方が多く優勝候補が次々と消えていった。

成績

M21A

1. 富田吉郎 館林 OLC 0:21:17
2. 奥村理也 ウルトラ 0:22:18
3. 桧山亮 札幌農学校 0:25:16

W21A

1. 三好暢子 上尾 OLC 0:27:29
2. 志村直子 渋谷 0:29:29
3. 植野由香 ルスツ 0:29:40

M35A

1. Darren Scott S O C 0:26:20
2. 城森博幸 OLP 兵庫 0:26:21
3. 竹下俊輔 茅ヶ崎市 0:26:50

W35A

1. 竹下朱美 茅ヶ崎 0:41:19
2. 信原眞澄 北海道協会 0:44:11

MB

1. 佐藤馨 大阪 OLC 0:14:44



城趾を駆け下りる竹下俊輔(茅ヶ崎市)



志村直子(渋谷で走る会)
お堀を横目に似たような地形を駆け巡る

ボートO は千鳥足

第2ステージ 大沼ボートオリエンテ
ーリング大会 亀田郡七飯町大沼湖

5年ほど前までは北海道の夏と言えば、北大大会でヤブと暑さと長距離に苦しみ、大沼ボートO大会で腕力を競ってリゾートして、共和町大会でメロンをゲットするという3大会が定番だったのだが、全国区の大会に成長する前にスポンサーが降りてしまい長らくの間ボートOは過去の懐かしい思い出となっていた。しかし北海道協会は世界唯一のこの大会をいつか復活させるべく虎視眈眈としていたのであった。

そこに今回の東大沼地区での大会企画が具体化するにつれ、当然この大会を復活させ複数レースとして提供することになったのである。それくらい我々道民にとって大沼ボートO大会は愛着のある大会なのである。

ただ、5年の月日を挽回するのは難しく当時と同様の運営を七飯町協会に依頼はできず、かつ、ボート手配の関係もあって当日参加不可等の条件が付された上での開催となり、結果 Do-Ringen 参加者限定としたため寂しい大会となったのが残念であった。

しかし、たった11名程の大会とは言え、参加者は勿論、運営者や見学者にとっては見応えのある(ほとんど「笑い」だったが・・・)レースとなった。

カヌーと違って手漕ぎボートの構造上、進行方向に背を向けながらの前進となる。それだけでも難しいのにボートを漕ぐのに慣れていないと直進すら難しく千鳥足のようにあっちフラフラ、こっちフラフラとなってさっぱり進まない。今回はナビ能力よりも漕艇能力で差が付いてしまったようだが本来は点在する島へのルートチョイスが問われる競技なのだ。



スタートを待つ井上和茂(八戸市)と、後方
およそ見当違いな方向に進み悪戦苦闘している
岡島聡(札幌農学校)

成績

M21A	1. 桧山亮	札幌農学校	1:08:51
	2. 岡島聡	札幌農学校	1:15:28
	3. 井上和茂	八戸市	1:20:08
W21A	1. 志村直子	渋谷で走る	1:11:11
M35A	1. 菅原春巳	鶴川町	0:44:14
	2. 城森博幸	OLP 兵庫	0:55:17
	3. 竹下俊輔	茅ヶ崎市	1:11:36
W35A	1. 竹下朱美	茅ヶ崎市	1:34:43
MB	1. 佐藤馨	大阪 OLC	1:05:32

Aクラスは全クラス共通コースなので実は21Aより35Aの方がレベル高い。それもそのはずM35Aトップの菅原氏はその当時「ボート親父」として名を馳せていた湖の王者だったのだ。

我々にとって愛着のある競技だが、確かにボートOだけではちょっと単調かもしれない。しかし、陸上コントロールを組み合わせるとボートを下りてからの勝負も組み合わせればより面白いレースになるだろう。次回はパーク&ボートO大会か? 乞うご期待。

今年は日本中天候不順で北海道は真夏日を経験することなく秋になりそうだが、この大会両日に限っては駒ヶ岳がとても美しく風景が疲れた体を癒してくれたことだろう。その後、参加者はオリエン宿には似つかわしくない豪華なホテルに宿泊し1日目は終了した。



パンチ争奪戦

コントロール下にびったりボートを寄せるのはなかなか難しい。



上手に漕げれば湖上の風は爽やかで新日本三景も楽しめる。城森博幸(OLP兵庫)

極楽！北の大地

7月13日 第3ステージ

第26回北大オリエンティング大会
兼 第1回流山温泉オリエンティング大会
(亀田郡七飯町東大沼・流山温泉)

今回のメインイベントである本大会の宣伝文句は「ヨーロッパの風を感じられるフィンランドっぽいトレイン」。日本の多くのトレインが片斜面トレインだが、本トレインは高低差せいぜい30mぐらいの大陸トレインである。その昔駒ヶ岳が大噴火した際に飛来した大岩がゴロゴロしており、その中には長年の間に土が堆積しコブと化した箇所も目立つ北海道離れ、いや日本離れたトレインなのである。

今回はJR北海道の協力の下、施設をフルに活用しての運営となった。本会場はJR函館線流山温泉駅隣接広場であり、更衣室は展示されている東北新幹線車両が開放された。公式掲示板も新幹線の車体に直貼り。隣は貨物列車が轟音を立てて通過していきSLもやってくるという鉄道マニアには垂涎のロケーションである。そのすぐ脇からスタートしゴールは施設内のキャンプ場。

走り終わった後は参加特典の半額券を使って小洒落た天然温泉でひとつ風呂浴び、隣のレストランで昼食を取り売店でビールやソフトクリームを楽しむといった環境をフル活用した極楽イベントであった。



更衣室として開放された新幹線車両と直貼りされた掲示板

レースの方は北大名物のゴくい(エグイ)長距離コースに加え、季節柄やむを得ないのだが調査者が落胆するほど成長した下草に見通しを遮られ厳しい展開となった。M・W21AはJR側の要求を全て満たすべく所有地全域をマップ交換ありで駆け回っていただいたため、かなりヤラれた参加者が多かったことだろう。しかし、トレインの評判は概して好評であったのは運営者予想通りで嬉しい限りである。優勝候補者の男女2名が駒ヶ岳の反対側に向かう列車に乗り間違えて遅刻したせいもあり、この大会も富田・三好夫妻が優勝をした。

成績

M21A	11,400m / 170m		
1.	富田吉郎	館林 OLC	1:32:29
2.	元木悟	チーム白樺	1:33:42
3.	柿並義宏	チーム白樺	1:40:54
W21A	8,800m / 140m		
1.	三好暢子	上尾 OLC	1:41:36
2.	金子恵美	上尾 OLC	1:48:44
3.	志村直子	渋谷	1:51:04
M35A	5,800m / 70m		
1.	田中徹	京葉 OLC	0:57:17
2.	竹下俊輔	茅ヶ崎市	0:58:48
3.	Darren	SOC	0:59:55
W35A	4,700m / 60m		
1.	竹下朱美	茅ヶ崎市	1:25:00
M20A	6,500m / 80m		
1.	徳永建	岩手県立大	1:55:07
2.	小松田成幸	岩手大 OLC	2:11:50
3.	井上陽介	岩手大 OLC	3:53:00
MB	3,700m		
1.	原田憲夫	札幌 OLC	0:59:23
2.	佐藤馨	大阪 OLC	1:01:19
3.	志水貴紀	岩手県立大	1:04:47
WB	3,700m		
1.	大原かおり	桧山支庁	0:52:36
2.	小山志野	桧山支庁	1:40:54



新幹線より速い女 三好暢子(上尾 OLC)



雄大な風景をバックに記念撮影
左から 元木悟・富田吉郎・柿並義宏

参加者の感想

優勝者の三好暢子さんが Orienteer-ML に嬉しい感想を流してくれました。

みよしです。夫婦揃って参加させていただきました。

1日目の五稜郭といく(ポートOには不参加) 2日目のヨーロッパなトレイン&気候といい、北海道を堪能させていただきました。特に、北大大会は超極楽でした。

大会の更衣室は新幹線、しかも女子更衣室はグリーン車!! 温泉が会場横にあり、露天風呂からの駒ヶ岳の眺めがすばらしいこと。浴室内もめっちゃめっちゃおしゃれ。半額券もうれしい!!

帰りは目の前の駅からSLに乗ってさようなら。こんな体験2度とできないでしょう 本当に楽しい2日間でした。運営の皆さんありがとうございます。

かくして3ステージのDo-Ringenは 函館駅解散をもって幕を閉じた。ちょっと企画運行に無理があり参加者のみなさんには配慮が行き届かなかったことをお詫びしたい。また、諸般の事情からツアー形式としたために自由度が無くなり敷居の高い企画となったのも反省点である。しかし、今回の経験や好評だった参加者の声を糧にして北海道名物企画として成長させていくことができればと願うばかりである。

で、総合成績は・・・(各レースをポイント換算により成績算出)

M21A

- | | | |
|---------|-------|--------|
| 1. 奥村理也 | ウルトラ | 3.6418 |
| 2. 松山亮 | 札幌農学校 | 3.7048 |
| 3. 岡島聡 | 札幌農学校 | 3.9864 |

W21A

- | | | |
|---------|----|--------|
| 1. 志村直子 | 渋谷 | 3.5681 |
|---------|----|--------|

M35A

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1. 竹下俊輔 | 茅ヶ崎 | 3.4474 |
| 2. 城森博幸 | OLP 兵庫 | 3.7332 |
| 3. 菅原春巳 | 鶴川町 | 3.8894 |

W35A

- | | | |
|---------|------|--------|
| 1. 竹下朱美 | 茅ヶ崎市 | 4.0000 |
|---------|------|--------|

MB

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 佐藤馨 | 大阪 OLC | 2.9916 |
|--------|--------|--------|

開催の経緯

この大会は我々が「何月何日に大会をやろう」と考えて取り組んだ大会ではない。七飯町東大沼地区に塩漬け状態のゴルフ場用地を確保していたJR北海道が用地の有効利用を七飯町に相談した結果、「現状をあまり変更するこ

となく格安で全域を使用している実績を作りたいのならOLがいいんじゃない」とアドバイスされて北海道協会に話が回ってきたものである。

七飯町といえば5年ほど前まで毎年大沼ポートOL大会を開催していた北海道の聖地であり、信原事務局長は「久々のポートOL&道南地区のニュートレイン」と夢をふくらませ色めき立ったのだ。

昨年の初冬からJR北海道と見積・企画を検討した結果、JR側は道協会のアドバイスを沿って遊歩道を整備する。JR所有地全域を使用し、地図を作製しパーマネントコースを整備する。その為の必要な機材を納入する。納期は6月末日。の条件のもと予算をつけてもらい本年4月末に道協会とJR北海道との間で受注契約に至ったのである。

ところが、同時期にJR側から7月中旬に完成地図を利用し大会を開催して欲しいという要望があがった。そこで昨年来から運営力が衰退し独自で大会を開催することが困難となっている北海道大学OL部に話を持ちかけ、地図調査は共同、作図は信原、大会は北大大会として運営・企画は道協会アドバイスのもと北大が主導するという条件で北大を巻き込んでこの企画はスタートしたのである。

とはいうもの、地図作製に残された時間は5月と6月の2ヶ月間。最初から多くは望めず、効率的に最低限の調査とすることが必須条件となった。トレイン状況はクマザサだらけの北海道トレインとは趣を異にし、平らでスピードのあがるトレインだったのでジェネシスマッピング等のプロマッパーを呼ぶことも提案したが予算の都合上それは却下された。

結果、経験の乏しい北大現役生に調査を依頼する余裕はなく過去に調査経験がある北大院生の武村譲と佐野智人のやられキャラ2人と信原・山田のハマリキャラ2人合計4名を中心に突貫調査と相成った。

5月の連休明け後毎週金曜深夜に武村・佐野を乗せ深夜大沼に向けて出発し、土日調査日曜の夜に帰札するという週末が続いた。ちなみに札幌から大沼までは片道約250km程あって往復は結構しんどい。おまけに北海道の5・6月はまだ天候が安定しておらず、毎朝霧がちで寒さに震えながらの調査となった。



調査時はこんなに白い森だったのに・・・。

私の調査範囲は湿地がちであるが岩や小ピーク・炭焼き釜跡に富み、でも真っ平らな大陸的トレインでフィンランドっぽさを売りにできる地形であり、しかも、まだ植生が良くて大会当日のようなヤブさを想像することもなくワクワク感を抱きながらの調査であった。何とか6月末日までに植生情報を除いた作図を完成させJRに納品し、大会1週間前に北大現役生を全員投入し、試走と最新の植生調査を行い地図を作図し大会に臨んだのだが、結果としてこのやり方は正しかった。というも7月になると植生状況が日一日と悪くなり、ヤブさが増していくのである。また、一週間の内にJR側が新しい遊歩道を重機で造ってしまっただけで地図に盛り込まなければならぬこともあり、作図者の信原は相変わらず大変だったが道が抜けているなんてことのない地図を提供するためには良い選択であった。

今回の大会は降って湧いたような企画だったため周知が遅れ、また学生は夏休み前の試験中にぶつかった所も多く参加者は最初から望めないのはわかっていたが、今となってはあのトレインとロケーションを多くの皆さんに体験していただけなかったのはちょっと勿体なかった気がする。運営や企画も稚拙な点が目立ったが好天と「北海道」という環境が補ってくれた。地元民である我々は実感無いのだが北海道という地は今でも日本人が行きたい所No.1らしい。次回のDo-Ringenはいつのことになるか未定だが、北海道に来てから帰るまで楽しんでいただけるようなイベントをまた開催したいものである。(山田健一)